

職員の健康管理

1. 結核定期検診

- ・ 病院職員に対して、感染症法で年1回以上の胸部X線検査実施が定められている。
(感染症法53条の2、政令11条、同12条、同12条の2、3)
胸部X線検査未実施職員にては、衛生委員長より注意勧告する。
- ・ 自らが結核などの感染源とならないために、咳など呼吸器感染症状が2週間以上続く時は、自発的に診察を受けること。
- ・ 全ての新規採用者、移動者にインターフェロン γ 遊離試験(以下IGRA検査)を実施する。
当院ではIGRA検査としてT-SPOT検査を実施している。
- ・ T-SPOT検査陽性者または判定保留者は呼吸器内科または感染症内科を受診する。

2. 結核定期外検診(接触者検診)

- ・ 保健所より、結核定期外検診受診の指示があった職員を対象とする。
- ・ 接触者検診の通知を受けた職員は、期間内にT-SPOT検査または胸部X線撮影を受ける(詳細は病院感染対策マニュアル「結核対策」を参照する)。
- ・ 胸部X線撮影は、原則として院内で実施する。
- ・ 検診期間中に退職する場合は、感染管理推進室に連絡先を届け出る。
その後の検診は保健所からの連絡を受け実施する。

3. HBs-抗原・抗体、HCV抗体検査

<対象>

- 全ての新規採用者、異動者は、採用後2ヶ月以内に検査を実施する。
- 血液、血液製剤と接触する可能性のある職員は、年1回、定期検査を受ける。
(事務職員、栄養科職員は希望者のみとする)

<検査要領>

(1) HBs-抗原・抗体

- 検査でHBs抗体陽性者(10mIU/mL以上)が確認された者は、原則、以後の定期検査を実施しない。
- HBワクチンを2コース実施しても、なお陰性(10mIU/mL未満)の者は、ノンレスポンドーとして、毎年定期検査を受ける。
- HBs抗体陰性でワクチンコースを終了した者は、抗体陽性確認のための検査を受ける。

(2) HCV抗体

- 血液、血液製剤と接触する可能性のある職員は、年1回、定期検査を受ける。
(事務職員、栄養科職員は希望者のみとする)

(3) 費用は病院負担とする。

4. 麻しん・水痘・風しん・ムンプス抗体検査

<対象>

- 委託業者を除く全職員

<検査要領>

- (1) 新採用時、異動時に実施する。
- (2) 検査項目
麻しん・水痘・風しん・ムンプス抗体検査 IgG(EIA)
- (3) 費用は病院負担とする

検査項目		検査時期	対象者
肝 抗 体 ウ イ ル ス	HBs-Ag・Ab	・新採用時、異動時検査 HBs-Ab, Hbs-Ag	全新採用職員
		・年1回 定期検査 HBs-Ab陽性者は検査を実施しない ・HBs-Ab陰性者(10mIU/ml未満)は、毎年定期検査を受ける	HBs-Ab陰性の血液曝露の可能性のある職員 医師 看護師 検査技師 薬剤師 理学療法士 放射線技師 臨床工学技士 歯科衛生士、医療補助員等 ※事務職、栄養科職員は希望者のみ
	HCV-Ab	・新採用時、異動時検査 HCV-Ab	全新採用職員
		・年1回 定期検査	血液曝露の可能性のある職員 医師 看護師 検査技師 薬剤師 理学療法士 放射線技師 臨床工学技士 歯科衛生士、医療補助員等 ※事務職、栄養科職員は希望者のみ
ム ン プ ス 抗 体	麻しん抗体IgG	・新採用時・異動時	委託業者を除く全職員
水 痘 抗 体	水痘抗体IgG		
風 し ん 抗 体	風しん抗体IgG		
ム ン プ ス 抗 体	ムンプス抗体IgG		

5. ワクチン接種

(1)HBワクチン接種(任意)

HBワクチン接種が、唯一絶対的な予防策である。アレルギーなどの問題がない限り対象者はHBワクチンを接種すること。

<対象>

HBs抗体陰性者(10mIU/mL未満)

一度陽性となり、その後陰性化した職員は、原則再接種は行わない。

<HBワクチンの接種スケジュール>

1コース接種(0、1、6ヶ月の3回)終了後、定期肝炎ウイルス検査で、HBs抗体陽性(10mIU/mL以上)者は、1コースのみで終了する。陰性(10mIU/mL未満)者は、さらに2コース目の接種(0、1、6ヶ月の3回)を行なう。

2コース接種終了後もなお、HBs抗体陰性者は、ノンレスポンドー(無反応者)であるため追加接種はしない。ノンレスポンドーは、職務中十分な防護により血液・体液曝露を避ける。また、曝露した場合は、速やかに感染症内科を受診し、HBIGの投与を受ける。

<接種要領>

- 各部署の責任者(部長、看護師長、技師長など)は、ワクチン接種希望者をとりまとめ担当者へ申し込む。

※接種回数は、1コース3回(0、1、6ヶ月)が原則。その都度申し込みを行う。

<費用負担>

病院負担とする。

(2)麻しん・水痘・風しん・ムンプスワクチン(任意)

<対象>

- 水痘、ムンプスIgG抗体(EIA)検査結果で、陰性(2.0未満)もしくは陰性ではないが基準を満たさない(2.0~3.9)となった職員
- 麻しん、風しんIgG抗体(EIA)検査結果で、陰性(2.0未満)、もしくは陰性ではないが基準を満たさない(2.0~7.9)となった職員

*これらの職員は禁忌でないかぎり、全員接種することが望ましい。

<ワクチン接種スケジュール>

新採用時または局外異動時に接種する。

<接種回数>

陰性者は2回、陰性ではないが基準を満たさない者は、1回接種を原則とする

<費用負担>

ワクチン購入費用の半分を、職員が負担する。

ワクチン接種スケジュール

ワクチンの種類	対象者	接種スケジュール
HBワクチン	・新採用時にHBs-Ab陰性者 (10mlU/ml未満)	採用2ヶ月以内 1コース接種 (0、1、6ヶ月)の3回
	・ワクチン接種1コース修了者で HBs-Ab陰性者(10mlU/ml未満)	2コース接種 (0、1、6ヶ月)の3回
麻しんワクチン 風しんワクチン	新採用職員・局外異動職員 IgG抗体(EIA) 陰性(2.0未満) 陰性ではないが基準を満たさない (2.0-7.9)	陰性 2回接種 陰性ではないが基準を満たさない 1回接種
水痘ワクチン ムンプスワクチン	新採用職員・局外異動職員 IgG抗体(EIA) 陰性(2.0未満) 陰性ではないが基準を満たさない (2.0-3.9)	

(3) インフルエンザワクチン接種(任意)

<対象>

- ・ 全職員(非常勤職員含む)、委託業者職員、ボランティアなど。
- ・ 職員は、インフルエンザ流行シーズンには、積極的にワクチン接種を受ける。
特に易感染患者の多い病棟、小児、NICUは、禁忌以外は全員接種が望ましい。

<費用負担>

- ・ 一部個人負担

6. 職員が感染性疾患に罹患した場合の対応

<報告と休務が必要な感染症>

インフルエンザ、ノロウイルス感染性胃腸炎、流行性角結膜炎、麻しん、水痘、風しん、流行性耳下腺炎などの感染症に罹患、または疑われる場合は、出勤を控え職場の上司に報告すること。感染力が低下するまでの一定期間は、休務を原則とする。

休務期間例：インフルエンザ・・・ 解熱後2日まで 感染性胃腸炎・・・症状消失後1日

7. 職員検診用電子カルテによる検診履歴管理

委託業者を除く、全職員に検診電子カルテが作成されている。定期検診結果及び血液・体液曝露時のHBs抗体価やワクチン接種履歴などを確認することができる。

※ 職員検診IDNo.は、採用時交付されるが、不明な職員は情報システム担当係で確認できる。

【職員電子カルテから検査結果を確認する方法】

CLOSED

【職員電子カルテからワクチン接種履歴を確認する方法】

CLOSED